

## 越前町議会・令和4年12月定例会一般質問【高田浩樹議員】

(令和4年12月6日 午前11時19分 開始)

○7番(高田浩樹君) 議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

今回の一般質問では、除雪の現状及び課題と体制等について質問をいたします。

本町では、これまで除雪に力を入れてきたことから、近隣市町の中では、除雪の良い町として評価されてきました。それはそれで大変すばらしいことではあるのですけれども、あくまで総合的、全般的、そういった観点からの評価であり、一旦雪が降れば、住民の皆様お一人お一人にとって、それぞれの生活に対する影響は大きく、事情や状況によっては個別具体的な問題が差し迫る、そのようなことも起こり得ます。

それゆえに、行政における除雪事業というのは、ある意味、センシティブな側面もはらんでいとも言えますが、だからこそ、これから雪が降る前に、現状や課題、体制、また、これからどのように展開していくのか、そういった考え方を含め、ここでしっかり議論していければと考えております。

最初に、本町の積雪、除雪車等の稼働日数、除雪に関する財政の支出の近年の傾向について伺います。

○副議長(佐々木一郎君) 建設理事。

○建設理事(水島博之君) それでは、高田議員の質問にお答えいたします。

近年の積雪状況ですが、平成29年度は、最深積雪量が126センチを記録する豪雪になりました。その後2年の積雪量は極めて少なく、令和2年度、令和3年度は2年続けての大雪となっています。

次に、除雪車の稼働日数と除雪に要した経費ですが、平成29年度の稼働日数は75日、かかった費用は2億5,900万円、令和2年度では、稼働日数は40日、費用は1億8,300万円、また令和3年度には、稼働日数が26日、費用は1億6,300万円となっています。

以上です。

○副議長(佐々木一郎君) 高田浩樹君。

○7番(高田浩樹君) 本町での今、現状について、積雪、稼働日数等について聞いたんですけれども、本町での除雪延長であったり、また公共施設、そういったところの除雪に関してどうなっているのかお聞きします。

○副議長(佐々木一郎君) 建設理事。

○建設理事(水島博之君) 除雪延長についてですが、福井県が実施する町内の国・県道は115キロメートルで、町道の実施延長は262キロメートルです。

次に、公共施設の除雪ですが、歩行型除雪機や小型除雪機が備えられている施設については、職員が除雪を行い、規模の大きな駐車場等については、委託業者が町道の除雪後に行います。

以上です。

○副議長(佐々木一郎君) 高田浩樹君。

○7番(高田浩樹君) 次ですけれども、除雪計画、また対策本部の運用、除雪機などの整備、いわゆる本町の除雪体制ですね。これの現状、どうなっているのかということをお聞きします。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 除雪計画については、道路や宅地造成、前年度の除雪に関する課題を踏まえ、毎年見直しを行い、安全で安心な道路の確保に努めています。

除雪の体制、出動基準等については、毎年12月1日から、私、建設理事を除雪対策本部長とする除雪対策本部を設置し、翌年3月31日までの間、除雪体制を取ります。

出動基準については、車道除雪は降雪深が10センチ、歩道除雪は20センチとなっており、今期は町内40社により、町保有除雪車33台、委託車46台、リース車4台の計83台の車両で対応します。

出動までの流れですが、夕方6時発表の降雪予報により、新降雪深が出動基準に達すると見込まれる場合に、委託業者に待機を指示します。職員は深夜1時に集合し、監視カメラの情報や雨雲レーダーでの予測、パトロールによる路面の状況を踏まえ、委託業者に出動を指示します。また、出動に当たっては、福井県丹南土木事務所、鯖江丹生土木部と連絡を取り合い、効率的な除雪に努めています。なお、降雪がない場合でも、最低気温が零度以下と、路面の凍結が予想される場合には、早朝から凍結防止剤散布車による対応を指示します。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ありがとうございます。

降雪が予想される際の準備、また除雪の実施、そういうものに当たって、職員の方々であったり、事業者の方々、関係者の皆様がまさに昼夜を問わず対応されているということに関しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

今ほど除雪体制の現状についてお聞きしましたけれども、この中でどのような課題があるのか、また対策についてどのようにしているのか、伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 除雪に関する課題としては、除雪車の維持と除雪業者の確保が課題となっています。除雪に使用する重機は高額なため、業者にとって購入は負担が重く、加えて毎年の整備費や車検料などの費用も多額となることから、車両の維持も厳しいと伺っております。また、除雪業者においては、従業員の高齢化とオペレーターの不足から、確保が難しい傾向にあります。

そこで、町では、車両の確保については、町所有の除雪車とリース車を計画的に増台するとともに、古くなった除雪車については、業者が希望する場合は払下げを行うなど、課題の解決に努めています。

そのほか、国や県では除雪車の運転免許取得費用に対する補助制度を設けていますので、業者に広く周知し、制度の利用を促しております。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 除雪車の整備のことにしましては、今ほどお聞きしたことなのかなと思うんですけども、課題としてオペレーターの確保が難しいと、それに関しての話も少しありましたけれども、もうちょっと深掘りしたいんですけども。もう少し具体的にその理由とか、また、さらに検討していることがありましたら、お答えください。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） オペレーターの減少傾向に関してですが、除雪作業は深夜、早朝から始まり、大雪になりますと不眠不休となることもあり、体力が非常に重

要となります。このことから、高齢化が理由で除雪を断る個人事業所もあります。また、交代要員が確保できない、オペレーターの健康状態から、除雪路線を減らしてほしいとの相談を受けています。

そこで、町では、町道除雪を土木工事等の入札参加資格条件に盛り込み、新たな業者の確保とオペレーターの育成を図ることとしています。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 我が国全体の問題でもあるんですけども、除雪業務を主に担う建設業において、特に高齢化による人手不足が深刻化しております。オペレーターの育成、そして習熟、それには時間を要します。今後の高齢化の推移を鑑みますと、できるだけ早く具体的に手を打っていかないと、本当に除雪機を運転する人がいないということも起こり得ますので、また早急に様々な方面から、県だけに頼るのではなく、様々な方向からまた検討していただきたいと思っております。

今まで主に重機などによる除雪についてお聞きしてきましたけれども、次は消雪設備、融雪剤、流雪溝など、消雪や排雪に関する整備や運用の現状について伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 消雪設備については、家屋が連担し、機械除雪が困難な区域や消雪効果が高い区域間の30路線、18キロメートルに整備されています。

次に、融雪剤については、凍結が予想される橋梁やトンネル、深いカーブなど、町内10か所に融雪剤を備え付け、ドライバーが非常時に利用できるようにしてあります。

次に、流雪溝については、本町では整備したところはありませんが、冬場に使用しない農業用水路を利用し排雪できるように、水路の蓋を開閉式に交換した場所が多数あります。

次に、排雪については、住宅密集地からの排雪に備え、天王川、越知川、織田川において、それぞれ県と町で排雪場所を確保しています。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 除雪を補完するものとして消雪がありますし、除雪と排雪、切っても切れない部分もあると思うんですけども、こういった消雪や排雪に関して、課題、どのように認識しているのか、また、どのような対策をしているのか、伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 消雪整備の課題ですが、管路など設備の老朽化が進み、点検や修繕費用が膨らんできています。このことから、国や県に対して、社会資本整備総合交付金の対象となるよう積極的に要望しています。

排雪に関してですが、特に住宅密集地では雪を押し場所が少なく、オペレーターは排雪場所に苦慮しています。これについては、ロータリー除雪車による除雪やダンプトラックでの運搬排雪にて対応しています。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ご答弁で消雪設備の老朽化についてのお話がありましたけれども、消雪設備の整備、また更新、こういった計画ってどうなっているのか教えてください。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 消雪設備の国の事業採択基準は、狭隘な上に家屋が連続する道路で、かつ排雪場所がなく、機械除雪が困難であることなど要件が厳しく、また、近年の大雪により各自治体からの要望も多いため、事業化は厳しいのが実情です。現在、町道の新規路線については乙坂地区の狭隘路線、県道では県道寺朝日線の朝日・岩開間の事業化を要望しており、町としては採択されるよう粘り強く要望してまいります。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 国の予算配分などにかかなり影響を受けるという、これまでの話の部分もあつたかとは思いますが、消雪設備、住民の方にとってとても重要な施設ですので、またしっかりと進めていただくよう要望いたします。

除雪に関しまして、住民から多く寄せられている要望、またトラブル、そういった内容について伺いたいと思います。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 住民からの声としては、国・県道を含めた車道や歩道、通学路の除雪作業をもっと早くしてほしいという意見や、田畑に押された雪に関する事、車庫や玄関先に残された雪の塊に関する事、路面の圧雪により生じた凹凸に関する事が多く寄せられております。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 除雪作業に時間を要すること、そういったことは理解されながらも、生活、地域経済を維持していくために、除雪をしっかりとしてほしいと望む住民の方々の願い、それは当然のことだと思います。これまでに多く寄せられたご意見、ご要望、これらを分析して、事前に対策できることについては対応していただきたい、そのように思います。よろしくをお願いします。

本町では高齢化が進み、独り暮らしの高齢者、また高齢者のみの世帯が増加しております。独り暮らしの高齢者の方、障害のある方、災害時要援護者に該当するような方の中には、周囲とのつながり、住環境、地理的条件によって、降雪により生活の危機となり得ることもあるかと考えますけれども、そのような方々に対する除雪支援について伺いたいと思います。

○副議長（佐々木一郎君） 山口民生理事。

○民生理事（山口隆司君） それではお答えいたします。

独り暮らし高齢者等の方々に対する除雪支援については、独り暮らし高齢者及び身体障害者等の屋根雪下ろし事業があります。住宅の屋根雪下ろし作業や積雪により外出に支障となる敷地内の必要最低限の除雪作業、住宅に損傷を与えることが危惧される除雪作業を実施した場合に補助するものでございます。

対象者は、住民税非課税で、区長または民生委員・児童委員が必要と認める世帯で、実費用額の2分の1以内で、一冬期間2万円を限度としております。

この事業の過去5年間の利用実績は3件です。

除雪支援への現状は、独り暮らし高齢者や障害のある方の世帯で、除雪の支援が必要と想定される世帯に対して、電話や訪問で確認を行っております。その上で、社会福祉協議会や在宅介護支援センター、介護サービス事業所などのほか、区長、民生・児童委員と調整を図り、不安軽減の対応に努めています。また、除雪作業に協力できる町内建設業者や除雪ボランティアなどの紹介も行っております。

今後の方針としましては、除雪など困ったときに助け合う家族や親戚との関係づくりについて、サロンや地区の寄り合いを通して、地域住民に対し、意識づけや普及を行ってまいります。また、区長をはじめ、民生・児童委員、地域関係者・団体が地域の中で日頃から声を掛け合い、助け合う地域力の醸成が図られるよう、行政からの除雪支援の情報発信を継続して努めてまいります。

町におきましても、民生、建設、総務部門が情報の一元化を行い、協力して臨機応変に対応してまいります。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ひとり暮らしの高齢者の方からお話を聞く機会がありまして、日に日に屋根また庭、玄関先に雪が積もっていく、そのような状況であると、体も思うように動かない中、それはそれはいつやむか分からない、不安になるとおっしゃっていました。

今、ご答弁の中に、支援が必要とされる世帯に関しまして、電話や訪問、そういったことをしているとおっしゃいましたけれども、とても重要なことだと思います。いろんな形でつながりが確認できるような施策、今、ご答弁にあったことが本当に重要だと思いますので、それはしっかりとさせていただきたいと思ひますし、雪のときは、行政も関係機関も地域も、個人それぞれお一人お一人、皆さん、本当に忙しくなります。ですので、そういう雪の降る前から、雪が降ったときを想定して、事前から必要なことを検討していただくようよろしくお祈いします。

次ですけれども、除雪に関し、地域との連携について、具体的なことも含めお祈いします。

○副議長（佐々木一郎君） 建設理事。

○建設理事（水島博之君） 住民の皆様に対しては、各区長を通して、除雪に関するお願いや町の広報、チラシにより除雪の協力をお願いしています。また、そのほか、地域との連携の一つとして、積雪の多い朝日、宮崎、織田地区に各区が利用可能な歩行型除雪機を用意しています。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 今ほど歩行型除雪機を用意しているというご答弁があったんですけども、そのことについて詳しく教えてください。

○副議長（佐々木一郎君） 杉本総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） それではお答えします。

まず初めに、当町が保有している貸出用の歩行型除雪機ですが、本庁に1台、宮崎コミュニティセンターに1台、織田コミュニティセンターに2台用意しています。貸出対象は通学路や除雪が困難な世帯等での除雪を行う区で、原則貸出日の前日までに申請書の提出が必要となります。貸出期間は1日以内とし、貸出料は無料です。

除雪機はいずれも令和元年9月に購入しており、これまでの貸出実績は、令和3年1月に朝日地区の青野地区で1回、織田地区の寺家区で1回の計2回です。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） 小型除雪機の対応なんですけれども、今、一見聞くとすごくいい制度に、施策に感じるんですけれども、令和元年に購入してから令和3年に至るまで合計3回ぐらいしか使っていないということなのかと思うんですけれども、

いかんせん実績が少な過ぎる。これは、そもそもこれのニーズが少ないのか、また知っている人が少ないのか、また手続が煩雑であったり制約が厳しいのか、いろんな原因があると思うんですけれども、いずれにしても実績が少ない。このように見受けられるんですけれども、このことに関してどのような見解なのか、また対策などあれば伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 杉本総務理事。

○総務理事（杉本恭伸君） 除雪機の貸出しの申請は貸出しを希望する役場、またはコミュニティセンターで所定の用紙に必要事項を記入し、除雪場所が分かる図面を添付の上、申請していただきます。貸出しに際しての主な条件は、使用者が保険に加入すること、使用報告書を作成すること、燃料は満タンにして返却することなどで、特に煩雑な手続はありません。

貸出申請が少ない要因としましては、排雪場所の確保、除雪機の運搬と人手の確保など様々な要因があることと思いますが、制度の認知度が低いことも一つの要因と考えられます。今後は区長会を通して制度の説明を行うとともに、町の広報、ホームページを通じて周知を図ってまいります。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） まず、認知度を上げていくということなんだと思うんですけれども、もしかしたらまた、今、煩雑な手続はないとおっしゃっていましたがけれども、いろんな制約等々、使いづらい部分があるのかもしれないです。また、いろいろと、僕はこれは結構活用のしよによってはニーズがあると思うので、また住民の方が使いやすいように、有効に活用できるように、また時と場合によっては、またさらなる整備も含めて検討していただきたいと思えます。

除雪に関しまして、地域との連携が特に大切になってくると思うんですけれども、地域で説明したり、要望を聞いたり、いろいろ機会をつくるなど、コミュニケーションを取っていくことが大切だと思うんですけれども、そのことについての見解を伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 水島建設理事。

○建設理事（水島博之君） 議員ご指摘のように、地域との連携やコミュニケーションは非常に大切であると認識しています。今後は説明やお知らせに加え、区長要望時に除雪に関する要望を伺い、事前に協議するなど、丁寧な対応を心がけていきます。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） よろしく願いいたします。

除雪に関しましての方向性、今後の展開として考えていることについて、最後に町長に伺います。

○副議長（佐々木一郎君） 青柳町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、除雪に関し、今後の展開や方向性についてのお答えをいたします。

まず、今年度より新たに除雪車両全車に位置情報システムを導入いたしました。除雪状況を随時確認でき、完了路線や未実施路線などが見える化し、応援態勢を含め、効率的に除雪できるように強化いたしました。また、先ほど理事が申し上げましたが、独り暮らし高齢者世帯等への支援や地域とのコミュニケーションによる連携など、住民の皆様の声に耳を傾けながら、丁寧な対応を心がけてまいり

ます。

町では、普段から大雪を想定した体制を取り、全力で対応しておりますが、行政だけでは対応し切れない場合があります。住民の皆様による地域ぐるみ、支え合いにより、雪に強い町となりますようご理解、ご協力をお願いいたします。

以上です。

○副議長（佐々木一郎君） 高田浩樹君。

○7番（高田浩樹君） ちょうど一昨日の日曜日の朝、ハピネスふくいというテレビ番組で、「冬に備えて確認しよう」というテーマで、この冬の天候・大雪に関する情報の取り方、除雪の備えであったり、雪道の運転、そういったことについて放送していました。さすがやっぱりテレビ番組だなと思うだけあって、本当にこれらについてすごく分かりやすく放送されていました。例えば、ブラックアイスバーン、運転する上で、本当にテレビで見ると一目瞭然だったんですけども、凍っていないように見える道路が実は一番よく滑るんだというようなことを放送でやっていたんですけども、ああいった形で、いろんな方法で、住民の方々に越前町からも情報を届けていくことが大切だなと思いました。

また、除雪に関する、先ほど歩行型除雪機の対応のこともありましたけれども、またこれから地域との連携とか、いろいろ様々なことを含めて、また補助事業のほうをまた検討していただきたいとも思います。そして、毎回同じことを言うんですけども、あらゆることで大きな影響を及ぼしている人口減少であったり、高齢化、これも除雪に関しても例外なく、オペレーター不足、そういったことでむしろ深刻化しているという状況であります。

こういった大きな課題がある一方、先ほど町長もおっしゃられていましたけれども、今年度から位置情報システムを導入する、そういった新たな取組みも出てきているということで、新しい技術を取り入れながら、除雪の在り方を模索し、最適化を図っていく、そういったことが重要になると考えます。そして、地域ぐるみ、支え合いが推進できるような取組みを今後展開していくということでありますので、そういった施策についてもまた検討していただきたいと思います。

本町の除雪がよりよい方向に向かうことを期待いたしまして、私の一般質問を終わります。

（午前11時48分 終了）